

芭蕉元祿事業 奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民俳句ポスト

平成二十五年七月度 入選句 (投稿総数二千九十句・小中生投句数千五百六十三句)

特選

選者 相馬 みさ子

ばあちゃんの気持つまつた大スイカ 大垣市 佐久間 友梨(小六)

目の前に大きくてりっぱなスイカが浮かんできます。

日頃から、おばあさんが一生懸命畑仕事に精をだし、頑張つて野菜づくりをされているのでしよう。作者は、そんなおばあさんの姿を知っているからこそ、この一句が生まれたのです。

ばあちゃんの大スイカには、ばあちゃんの気持がいっぱいつまつているという表現に作者の豊かな感性を感じさせます。

あじさいに時をわすれた通学路 大垣市 前本 実穂(小六)

時を忘れるくらい、紫陽花にみとれたというわけですね。紫陽花の咲いている通学路に足を止め、見入っている作者の姿が想像されます。紫陽花が美しい書かなくても「時をわすれた」に紫陽花の魅力が言い尽くされています。

「五・七・五」の制約の中で豊かな想いを表現するための言葉選びが大切ですね。この作品は、一言で紫陽花のさく風景と作者の姿をよみ手に豊かに想像させました。

つばめの子みんなそろって口あける 大垣市 立神 花芽里(小四)

なんとかわいい光景でしょう。誰もが一度は、こんな光景を目にしたことでしょうか。とてもほほえましい想いにさせる一句です。子つばめが顔を並べ、みんなそろって口をあけ親つばめの餌をもらおうとしている姿がよくわかります。そのうち子つばめ達も飛ぶ練習をすることでしょう。これからも身のまわりのできごとをよく見て感動を一句にまとめる俳句づくりを楽しんでくださいね。

秀逸

ゆかた着て友と歩いた宵の道 美濃市 朝日 陽香(中三)

シロップでじぶんいろのかきごおり 瑞穂市 高田 華果(中三)

ほたる舞う静かにもす命の灯 大垣市 馬淵 瑛子(中三)

ささのほにかぞくみんなのねがいごと 大垣市 富田 優美(小四)

かき氷一番低い氷山だ 大垣市 小川 慶三(小六)

草の中もん白ちよりの遊園地 大垣市 牧 萌花(小四)

なつのくもふわふうかんでベットみたい 大垣市 かじ山 まほ(小二)

てんしゅかくせみさんの声ひびき合う 大垣市 高田 滉平(小五)

水まんじゅうのどにつるんとはいってく 大垣市 川合 乃愛(小三)

サングラス父のまねしてかけてみた 大垣市 奥洞 奈々愛(小五)

入選

暗闇に蛍の光道しるべ 関市 戸松 瑞乃(中三)
 こいのぼり一年ぶりの主人公 愛知県あま市 加藤 まや(中三)
 雷鳴に逃げ足速き子供たち 愛知県一宮市 田中 友菜(中三)
 夕焼けは赤・黄・オレンジ芸術だ 岐阜市 川島 麻実(中三)
 浴衣を着髪をあげたら別人だ 岐阜市 舘 映 見(中三)
 蛍火は地球の中の流れ星 岐阜市 林 麗 華(中三)
 夏トマトのどを潤す祖母の愛 瑞穂市 広瀬 由圭(中三)
 ふうりんが風にさそわれない 大垣市 藤墳 芽吹(小四)
 ごこのそらにゆうどうぐものおでました 大垣市 大倉 優舞(小四)
 かぶと虫かぶとおしあて大ずもう 大垣市 西脇 楓華(小四)

入選

ひまわりとぼくのえがおでハイチーズ 大垣市 那須 春仁(小四)
 ひまわりとぼくの身長くらべっこ 大垣市 馬渕 裕輔(小四)
 かきごおりことしのあじはどれにしよう 大垣市 久世 美羽(小三)
 うちのお茶むぎ茶にかわった夏が来た 大垣市 川瀬 朱莉(小三)
 ねむたいよラジオたいそうゆめのなか 大垣市 山村 心愛(小三)
 水あそびホースをあげたらにじがでた 大垣市 原 侑太郎(小三)
 かきごおりどこからたべる山くずし 大垣市 土川 友理華(小二)
 いい気ぶん気持ちもはれる夏の空 大垣市 田中 康大(小六)
 おじいちゃん一日かけて田植えする 大垣市 細野 凧咲(小四)
 入どう雲わたがしみたいでおいしそう 大垣市 古田 真琴(小五)

選者吟

ふうわりと招く老舗の夏のれん

相馬 みさ子